

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4371100449
法人名	有限会社 ハートフルハウス
事業所名	グループホーム とどろき
訪問調査日	平成 20年 3月 24日
評価確定日	平成 20年 4月 5日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	4371100449		
法人名	有限会社 ハートフルハウス		
事業所名	グループホーム とどろき		
所在地	熊本県宇土市栗崎町736番地 (電話) 0964 - 23 - 3725		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番19号402号		
訪問調査日	平成20年3月24日	評価確定日	平成20年4月5日

【情報提供票より】(平成20年2月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 2日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱・共益費400 / 日円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/ 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年2月29日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	2 名	要介護2	2 名			
要介護3	3 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	85 歳	最低	79 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇賀岳病院	高浜病院	吉永歯科医院
---------	-------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれた高台にあるホームは木造の落ち着いた造りで、敷地内にはデイサービスやケアホームが隣接している。健康管理を第一に、日々の生活の中に体操や歌を取り入れ、身体機能維持や筋力低下防止に努めている。入居者とのコミュニケーションを大切に、潜在能力を活かした自立支援や一人ひとりに寄りそったケアを行い、ゆったりとした中にも笑顔が絶えない明るいホームを目指している。菜園でできた野菜を食卓に出したり、ケアホームで飼っている犬の世話をしたりと、五感に働きかけるような支援に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	生活支援の中で自分でお金を支払う買物については能力に応じてこづかいを手持ちの財布で持ってもらい、買物の機会をもつ支援を行なった。管理が困難な入居者には買物の際にレジで支払うよう支援している。6ヶ月ごとの介護計画の見直しについては、3ヶ月・6ヶ月後の評価が記入できるケアプラン様式に変更し、また認定更新月の早見表を掲示し分かりやすくした。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を職員は理解しており、今回の自己評価は全項目を全職員で取り組み、ケアマネージャを中心に話し合いながら完成させた。見出された課題は、外部評価の結果をもとに検討する予定である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では行事報告や年間行事計画・外部評価の結果等の報告を行ない、またテーマを決めて勉強会を実施し意見交換を行なっている。改善項目のひとつである認知症に対する地域の理解を深めるために運営推進会議を活用し、入居者と共に食事をしながらホームの状況を把握してもらい取り組みを行なった。今後も認知症啓発の一環として継続されることに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月担当職員の一筆をそえた便りで入居者の状況を報告し、面会時や家族会の昼食後に意見を求めるようにしているが、あまり出ないのが現状である。出た意見は、申し送りや会議で報告し改善策を講じている。家族同士で話す機会を設けるような家族会の活用を期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地区の老人会や行事に入居者と共に参加したり、地域の清掃活動は職員が参加し地域の一員としての役割を果たしている。地域の保育園の夏祭りにも入居者の状況に応じて参加している。ホームの周辺には畑が多く散歩や外出時に挨拶を交わし、また野菜や漬物等の頂きものもある。今後は災害時における地域の協力を得られるような働きかけを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の福祉理念を覚えやすいようにまとめたものを、目につきやすい場所に掲示している。入居者の個性を尊重し、意欲を持った自立生活を支援し、心の通い合うケアを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議等で理念について話し共有している。日々の生活の中で理念にそったケアに取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動に職員が参加したり、地区の老人会や近所の保育園の夏祭りには入居者とともに参加し交流を行なっている。地域の方から野菜のおすそわけもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的は職員は理解しており、今回の自己評価は全項目を全職員で取り組んだ。外部評価の結果をもとに、改善項目をあげて取り組むようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者やホームの状況を報告するとともに講習会の報告や高齢者虐待・認知症高齢者の排泄や食事について等の勉強会を開き、意見交換を行なっている。		

グループホーム とどろき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務長が中心となり連携をとる体制が整っており、相談等もしやすく、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や毎月請求書と一緒に担当職員の一筆をそえた便りを送付し入居者の状況を報告している。面会の少ない家族には電話での報告もしている。預かり金の報告は定期的に出納帳のコピーを渡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の昼食会後に意見を聞くようにしているが、あまり意見がでないのが現状である。出た意見は申し送りや会議で報告し、改善に向け努力している。		家族同士が話し合う機会を提供されることも期待されます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職時には入居者にとって安心できる体制作りに配慮し、家族への報告は手紙で行っている。また面会時に新人は紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員が交代で出席し毎月の会議で報告している。内部研修は毎月の会議でタイムリーな議題を考えて勉強会を開催している。		研修会や勉強会の会議録の整備が望まれます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月1度の地区のグループホーム協会の会議に参加し、他施設との交流や勉強会等、情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族やケアマネージャからの情報を把握し、見学や体験利用を経て入居に至っている。職員は声かけに配慮しながら支援し、気づきを記入し早く馴染んでもらうよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>季節の野菜の漬物づくりを教えてもらう等、ともに支えあう関係づくりを築いている。何かしてもらった時は感謝の言葉を伝えるようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族からの情報や日常生活の会話から意向を把握するようにしている。意思表示が困難な入居者からは、日々のケアの中から思いを汲み取るように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントをもとに入居者のできる事・できない事を把握し、家族の意向を取り入れ、職員で話しあって暫定の計画をたっている。様子をみた上で職員全員で話し合い家族にも説明し、最終的な介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のカンファレンスでモニタリング・評価を実施し、基本的には3ヶ月ごとの見直しを行なっている。入居者に変化が生じた時は随時見直しを行なっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じ通院支援を行なっている。隣接するデイサービスやケアホームに遊びにいき旧友との交流が図れるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を尊重した往診や受診支援を行なっている。通院には家族が同行されることもあり、相互の情報交換を行なっている。要望があれば訪問歯科の利用を行なっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けたホームとしての指針や方針は定めていない。		重度化や終末期に向けたホームとしての方針を確立し、家族への説明が望まれます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時等はプライバシーに配慮した言葉かけを行い、一人ひとりに合わせた分かりやすい言葉で呼びかけている。記録や保管にも工夫・配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に、入居者の希望にそった支援を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を聞きながら材料をみて献立を決め、下ごしらえから茶碗ふき・後片付けまで能力に応じて共に行い、役割として自ら進んでされる入居者もおられる。職員も一緒に食事を摂り、楽しい雰囲気である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望を聞きながら、時間や順番に配慮した入浴支援を行なっている。入浴拒否の方には強制はせず、タイミングをみて声かけをし、清潔保持に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・洗濯物たたみ・茶碗ふき等得意分野で能力を発揮できるような働きかけを行っている。日常生活の中で一人ひとりの楽しみ事や散歩や外気浴等気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や入居者の状況に応じ、散歩・ドライブ・買物の支援を行なっている。また弁当を持って温泉や花見に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠の弊害を理解しており、鍵をかけないケアを実践している。入居者の好きな場所を把握しており、また常に所在確認をしている。入居者が外に出られる時は、さりげなくついて行くようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回隣接の事業所と合同で避難訓練を実施し、入居者も参加している。緊急マニュアルを作成し定期的な勉強会を行なっている。		運営推進会議等を活用して地域の協力を得られるような働きかけを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表に記入し職員間で共有し、入居者の病状に応じて制限水分量の確認チェックを行なっている。また入居者の咀嚼や嚥下に応じて刻みやとろみの提供をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、リビングにはピアノを置くなど家庭的な雰囲気である。廊下にはソファや長いすを設置し、思い思いに過ごせる空間づくりを行なっている。換気や臭気には充分配慮し快適に過ごせるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら馴染みの物を持ち込み、入居者とともに家具の配置等を考えたり、入居者の生活スタイルにあわせ、畳の部屋にするなど、一人ひとりにあった居室づくりを支援している。室温は職員が調整し心地よく過ごせるよう配慮している。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム とどろき
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宇土市栗崎町736番地
記入者名 (管理者)	佐藤 定子
記入日	平成 20年 2月 29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の一人ひとりの個性を尊重し、意欲を持った自立生活を支援する。お互いに協力し、温かく見守りながら、心の通い合うケアを理念におき、施設の名称を「温心館」とし、ご家族・地域の人々に認知してもらうよう努力している。		入居者一人ひとりのその人らしさを中心におき、その人の物語を尊重する支援、又、地域住民相互に地域で暮らす全ての人々を、社会の一員として包み支え合うと言う、ソーシャルインクルージョンの概念を大切に地域づくりを行っている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者が一人の人間、一つの個性として、尊厳を持って温かく見守り、自立した生活が送れるよう、QOLを高めるよう、職員全員で取り組んでいる。		本人の意思決定を尊重し、ご家族や地域の方の意見や意向を取り入れ、共に理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を施設全体、施設総合のものとした名前「温心館」として、家族や地域の人々との交流を通し理解を深めている。		理念を施設全体、施設総合のものとした名前「温心館」として、家族や地域の人々に分かりやすく理解しやすいものとしている。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設の周囲は、ミカン畑や野菜畑と農家の方が多く、外出や散歩などは、隣近所の人へ気軽に挨拶等している。時には、野菜等の頂きものもある。		グループホームの入居者やスタッフが、近くを通る際、一人ひとり笑顔で声かけをし、地域の一員として、いつでも気軽に立ち寄ってもらうよう家庭的な雰囲気づくりや地域コミュニティの環境づくりに努めている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の老人会の催し物や地域の清掃活動など等に参加し、地域に暮らす住民として地元の人々との交流に努めている。		地域活動等には積極的に参加しているが、もっと他方面の地域や人々との交流も広げて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等を通じて、認知症問題など地域にあった身近な問題を議題とした、講習会や説明会での協力を、提案している。		施設での取り組みやサービス内容(どの様な所で、どのようなケア等をしているのか?)等専門職の立場から、地域の方々へお話しする機会を設けるよう努めている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の内容についてもスタッフ間で検討会を行い、項目ごとの重要性の理解を深めている。		自己評価を含めスタッフ間の検討会等には、運営者や管理者も常に参加され、活発な論議がなされている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	講習会や説明会など勉強会が中心の会議となり、ホームに関する意見交換や外部評価の状況等などの説明にも努めている。		今後も、会議を地域との意見交換の場所として位置付け、又、外部評価への取り組みや状況等においても説明し、施設の運営方針や理解を努めてまいります。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宇土市役所の担当者や運営推進会議の方々以外にも、地域の方々との交流を通し、とりわけ高齢者のご意見を参考に行政と一体となってサービスの質の向上に取り組んでいる。		今後は、グループホーム運営だけでなく、地域の資源を活かした支援として、環境保全活動など地域貢献もサービスの向上の一步と考え取り組んで生きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在ではスタッフの合同学習の機会が少なく、情報も不足していたと思われる。		今後は、当施設に外部講師を招き、知識の習得や自己研鑽に努めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一人ひとりが利用者の異変に「おかしい」と気付くケアに努め、常日頃から目配り、気を配りし観察している。又外泊や外出等された後も、帰宅前後の心身の状態や表情等確認し、必要に応じ家族に問いあわせる等して、情報収集に努めケアに生かしている。		虐待の可能性があれば「おかしい?」の変化に気付き見過ごさない努力を常日頃から心掛けている。今後とも、利用者への言葉づかいや介護の支援方法等など、その人の人権を考えた支援に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、契約書を解りやすく説明し、後で疑問が発生した時にも、家族の方と何度もお会いして、不安や意見を十分に拝聴し、理解と納得を得ている。</p>		<p>契約時にかかわらず、入居後も疑問や不明な点がないかどうか、気軽に相談出来る様に声掛けなどを行っている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>スタッフや施設等への意見、不満、苦情を言われる時は、それを事実として率直に受け止め、申し送りや会議等時に報告し、改善策を講じながら運営に反映させている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、家族便りにて担当の職員が個別にお手紙を書き、近況や健康状態、訴え等を書き報告している。面会時も、同じように状況等報告している。</p>		<p>利用者の体調不良時、定期受診後の報告や、突発・緊急時の受診では、ご家族への電話連絡等を徹底している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>スタッフ及び施設等への意見、不満、苦情を言われる時は、それを事実として率直に受け止め、申し送りや会議等時で報告し、改善策を講じながら運営に反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の申し送りや定期会議等で提案や意見ができれば、必要に応じて運営者に上申し、改善に努めている。</p>		<p>今後、運営者を含めたミーティングの機会を多く設けていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>変則的な勤務体制、必要に応じての早出や超過勤務、臨時出勤などにより、現スタッフで調整を行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動に当たっては、利用者が安心、安寧の体制づくりを第1に考え、管理者及びスタッフへの事前協議がなされており、概ね異動者との相互理解のもと実施されている。離職については、その殆どが一身上の都合による自己退職の為、ケースバイケース出来る限り慰留に努めている。</p>		<p>今後、人事管理面においては、運営者とスタッフとの話し合いの場を設けることとする。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	熊本県などからの研修案内等には積極的に参加しているが、業務が多忙のため独自の計画は些少である。しかし職員が個人的に研修会や講習など、機会に応じ業務に差し支えないよう参加している。		今後は、外部講師などを招き組織的に研修を行ってきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のGH協会の会議、他施設との交流や研修会等を通じて相互のネットワーク作りに努めており、今後の活動のあり方等サービス提供に反映させている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、気軽に相談できる環境づくりに努めており、食事会やミニバレー等への参加により、スタッフ間、他の職員間とのコミュニケーションが図られている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、各個人の仕事ぶり等を管理者に聞かれてたり、スタッフへの励まし、ねぎらいの言葉をかけられるなどやる気、向上心の醸成に努められている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常に利用者の方の声を傾聴し、必要に応じ数回の面談を行うようにしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話等による相談も必ず面談し、不安や要望、求めに応じるようにお話を聞く機会をつくり、ご家族の方の心のケアも心掛けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシートや家族の方からの情報聴取で、その方にとって何が必要な支援か？ケアマネージャーと共に話し合い、本人やご家族が納得された上でサービス提供や情報提供に努めている。		他サービス事業所や地域包括支援センター等と連携を取り、多方面からも柔軟な対応が出来るように努めていきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能なら入居前にホームへの体験利用(日中)も対応するようにしている。担当者が声かけしながら徐々に馴染みの関係を作るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や季節の野菜での漬物作りなど一緒に、分からない所は教えてもらい作業を行い、何かをしていただいたら「ありがとう」の言葉掛けをして、共に支え合う関係作りをしている。		業務優先でなく、本人の意思、意向を優先にした、支えあう介護を行っている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会等で家族の方の思いや現状を聞き、不安や悩み等一緒に協力できるよう、些細なことも連絡を取り合い、ご家族と一緒にの方向性を持った支援に努めている。		今後も、ご家族と共に一緒にの方向性を持った支援に努めていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人と家族の方の思い、お互いの思いがより近づけるよう、本人の希望による外出や用事事も、できるだけ家族による対応ができるように連絡を取り、面会の少ない家族への呼びかけも行っている。		施設での行事の参加の呼びかけなど、家族との関わりが多くなるように努めていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば外出したり、ドライブや買い物等にも行けるように配慮しており、隣接のデイサービスやケアホーム利用者の方々との交流も行っている。地域の敬老の日等、老人会への出席も支援している。		今後も、本人からの意向等があれば、地域の老人会等の出席を支援していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い者同士が、配膳や食器拭き、洗濯たたみをしたり、おやつ時には、お茶やコーヒーなど入れたりしている。又、スタッフが間に入り会話の橋渡しをして、なるべく孤立しない様に配慮している。		現在、仲の良い利用者同士のグループが出来ていて、お互いに励まし労ったりする姿が見受けられる。今後も、利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご本人やご家族への季節のお便り、連絡など行ったり、ホームへ気軽に遊びに来れるような声掛けをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
ま				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに応じた暮らし方、どの様にされたいのか意向に添えるように、言語的コミュニケーションや非言語的コミュニケーションを通しての情報収集し、職員共通のコミュニケーションに努め支援している。		病状の進行や状態にあった職員共通のコミュニケーションに、努め支援して行きたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居利用の際は、生活歴や以前利用されていたサービス内容等、細かな情報の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の過ごし方、食欲、表情、顔色等身体状況やADLなど、一人ひとりの状態を観察し記録やミーティングでの報告、又は、フェイスシート作成にて、スタッフ一人ひとりがきちんと把握できるように努めている。		その人の出来ないことではなく出来ることを重視し心がけ、スタッフ一人ひとりが、その人の有する能力に気付き把握するように努めている。
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	可能な限り本人や家族の意見、思いを聞き、スタッフ全員が問題点や日常生活がより良く過ごせるように、カンファレンスを行い、意見を出し合い、計画を作成している。又、個別にてお話を聞けるようにしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな問題点が出た場合は家族への連絡、計画追加、期間に応じて評価、又、細かなプランの変更は追加や訂正し、計画を立てている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録に毎日の様子や変化、気づき等記録に残し、ケアプランの実施、見直しの活かしている。出勤時には、必ず記録に目を通して申し送りを行っている。		その人の出来ないことではなく出来ることを重視し、その人の有する能力を活かしたケアプランを実施して行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地ない隣施設のケアホームとの連携を取りながら、要望や必要に応じて対応できる様に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアの方々に、運営推進会議や他会議等に参加を協力をお願いしている。警察や消防との協力体制がまだ不十分の為、運営推進会議等への参加を依頼し、協力体制を作って行きたい。		今後は、警察や消防へ運営推進会議等に参加の協力をお願いする。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望があれば、併設のサービス事業所を利用する等での対応や、他事業所への希望があれば利用に向けた相談も行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の参加を依頼している。		今後は、地域支援センターと連携を図りながら協働して行きたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望を大切に、もともとのかかりつけであった主治医との関係を大切に、定期的な受診を行っているが、診療科目外の症状が発生や緊急時の場合は、本人や家族と相談の上に適切な医療機関への受診を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現状では、利用者全員が専門医等との関係強化がなされているとは言えないが、内科医のかかりつけ医との連携強化はなされていると考える。また必要に応じて専門医にも相談を行っている。		今後、必要に応じ専門医にそう専門医療機関からの情報や意見、指示・助言を受けられるよう支援して行く。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常の健康管理、内服管理、急変時等対応できる様、看護スタッフが常に気を配り、医療機関と連携をはかりながらケアにあたっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との連携を取りながら、入院中も利用者や家族の不安がない様、家族や病院とも情報交換をし、退院後も定期的な受診や、ホームでの生活に支障になる項目を提示することで、改善に取り組み、対処策を検討している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要性は感じている。高齢者、みとりのケアの必要性は常に感じている。具体的にどうして行くかの共有の方針はない。重度化した場合は、医療機関に頼っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	具体的に「できること・できないこと」の見極めの検討は行っていない。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	緊急時を除いて、スタッフも移り先の施設等見学に行き、ホームとの違い、不安等は、本人や家族、スタッフにて検討を行い、本人同行にて施設見学、体験利用も対応するように考えている。		情報提供を行い、本人のダメージ防止のために連携を取って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者一人ひとりの持つ、個性、その人らしさ、そのひとの物語を大切に、個人情報のもれやプライバシーの尊重は図られている。</p>	<p>「各個人の私生活上の自由」を大切に、支援して行きたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人が思いや希望を表せるように、難聴の方には文字やジェスチャーとう非言語コミュニケーションを活用して、言語だけではなく表情、動作等にて自己の意思表示が出来るように支援している。</p>	<p>病状の進行や状態にあった職員共通のコミュニケーションに努め支援して行きたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>天候や利用者の体調も合わせて、支障がないかぎり、なるべく希望に添って支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>数人の利用者は、個別の美容室があり家族の協力のもと出かけて理髪されている。他の利用者は、出張理容を依頼して希望に合ったおしゃれを支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好みや調理手順を聞いたり、身体状態に応じて、下準備、野菜の皮むき、後片付けや食器拭き、テーブル拭き等、毎日の日課としてスタッフと一緒に楽しまれている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>個人的に食したい物の希望があれば、個人で購入して頂き、食に制限のある人は医師の指示を受けて支援し、一人ひとりの状況に合わせて好みや希望の食時間を心掛けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	表情や行動での訴え等観察し、一人ひとりの排泄パターンを知り、声掛け誘導を行い、トイレでの気持ちよい排泄を支援している。		今後とも失禁がなく気持ちよく排泄が出来るよう、排泄パターンの確認や早目の声掛け、誘導を心掛ける。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や時間に合わせ入浴支援をしているが、順番等不公平にならないように、心掛けて支援している。場合によっては、気の合う方と二人で入浴される場合もある。		身体機能や状況に合わせた入浴支援を検討して行きたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人の生活リズムを重視し、支障のない程度の休息は自由に行ってもらい、居室やソファーにて休まれている。睡眠時間等個々に応じて対応、支援している。		身体状況に合わせ、一人ひとりにあった生活のリズムを確認し、支援して行きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日ごろから生活の中で、趣味や得意分野を活かせるように、仕事の役割等張り合いがもてるように、会話の中で「やり方、段取り」など聞きながら支援している。		その人の出来ること有する能力を活かした支援して行きたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出やお出かけの際は、個人で財布をお持ちの方もおられ、希望に応じて買い物や支払い等所持したお金にて自分で払われている。他の方も、預かり金より希望や能力に応じて、支払いやお釣り等できるように支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日、近場のドライブや身近の買い物などできるだけ希望に添えるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月ごとに温泉旅行(日帰り)やお弁当持参の海、山等へのドライブなど、行き先をかえた外出支援している。		季節等良くなり暖かくなれば、ドライブや外出等支援して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望や必要に応じて、利用者自ら電話をかけられたり、スタッフが介助するなど、使いやすい場所に設置してあり。又、お手紙の要望は、はがきの購入や書かれるときはスタッフが一緒に支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日ごろ日中、面会等自由にしており、居室でゆっくりと話されたり、食堂や居間のソファにて、コーヒーやお茶を飲みながら自由な時間を過ごされるよう心掛けている。		暖かくなれば、ベランダや玄関のポーチの場所も考えている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束の意味をきちんと理解している。又、「しない、させない」を声掛け、徹底している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日ごろから、居室や日中玄関に鍵をかけることはない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室への訪室時やトイレ等でのノックや声掛けなどプライバシーへの配慮や、居室での休息時の声掛け見守りにて、利用者の様子や様子所在をスタッフ間で確認し合い安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物、服薬の管理は、一定の場所へ保管(扉、引き出し等)必要に応じて職員と一緒に作業を行い見守り声掛け等、一人ひとりの状態に応じた取り組み支援をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりハットの職員全員での検討会や、看護職員を中心に予想される利用者一人ひとりに応じた事故防止(誤嚥、窒息等)の知識を学び、取り組んで支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急のマニュアルを作成し、看護職員が中心となり勉強会、訓練を定期的に行っている。		今後も勉強会や訓練を行って行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、事業所内、合同にて訓練を行うようにしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりえるリスクについては、状況に応じて家族に説明、理解をえている。又、共同生活が困難と思われる場合は、家族に説明し理解をえ協力してもらっている。		時間が取れる限り家族の面会や家族との外出を試みながら気分転換をはかり、一人ひとりに合った生活や暮らしを大切にしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の個人チェック表でのバイタルサイン、水分、排泄や入浴時の身体状態等内容など記録に残し、毎日の申し送の際や、その都度気付きの際にスタッフ間で情報を共有し対応している。緊急性、必要に応じては、主治医に連絡し指示を受けている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬ファイルは作成しているが、全スタッフが内服の種類や目的を理解していない状況。		利用者個々の内服薬の内容や目的、副作用について、知識・確認を服薬ファイルにてチェックする。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量のチェック表や食事(繊維質の食品)、体操(下腹部マッサージ)や散歩などスタッフ一人ひとりが理解しており、働きかけ等に取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアは実施している。利用者個々の状態や能力に合わせて介助、確認を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせての食事量、水分量チェック表(季節に合わせて)や病状に応じて1日の制限水分量の確認チェックを行い、身体状態(咀嚼・嚥下・浮腫・体重等)に応じた支援をしている、		食欲や身体機能等の低下が見られる時は、手巻き寿司パーティー、テラスでのバーベキューやドライブ等の外出など環境、雰囲気を変えての食事支援を行っている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成やポスター提示などの目に付く場所に置き、常に意識付けを行い、職員が感染症の媒介とならない様に、出勤、外出等にての手洗いや嗽等の徹底や入居者の外出時の手洗いや嗽等を徹底している。 (各居室の換気、寝具類等の日光消毒など)		今後も、感染症に対する予防や対応等、勉強会は行って行く。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の買い物は2日目に行っており、新鮮で安全な食材の提供に努め、調理用具(包丁、まな板、布巾等)薬品による消毒の徹底、夜勤者による利用者入床後の食堂・トイレの掃除や清掃も毎日行っている。		今後とも職員だけではなく入居者の方も、トイレ使用後の石鹸での手洗いの声掛け介助、その後、食堂に来られての手指の消毒を行い、食事やおやつ前の衛生管理を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは、季節の花を植えたり、玄関ポーチには、誰でも気軽に座って寛げるように、イスやテーブル等を設置している。 天気の良い日などは、ポーチにて入居者やスタッフで日光浴等ゆっくりとお茶を飲み会話をし寛いでいる。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋のレースのカーテンやのれん、季節によるすだれや日よけ等の活用、食堂や廊下から直接出られるポーチの設置、中庭や畑での野菜作りなど生活感や季節感を取り入れた工夫を行っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室前の廊下には、ソファーや長いす、ベンチを置き、居間には、テレビ・イス・テーブル・ソファー等利用者スタッフ全員での共用空間や食堂には、畳・ソファー等の寛げる空間も有り、個々自由に思い思いに過ごされるように工夫している。		居間や食堂にはテレビがあり。片方では洗濯たたみ等され、他方では、気のあった人とテレビを見られたり。また、農家からのお裾分けで戴いたミニトマトの出荷ケース作りをお礼に行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみの物や使い慣れた家具等の配置など、本人の意向を聴き一緒に作業にて部屋内の配置を考え、居心地よく過ごせるように工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに換気には努めていおり、利用者の体調や状況に応じて室温や湿度等心掛けて調整している。気になるにおいなどは、竹酢液や消臭液にて、こまめに居室の掃除を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレには、手摺りが有り、居室等のドアは開き戸など使いやすく工夫され、玄関ポーチには、手摺り、階段やスロープがあり、身体機能を生かして、安全に生活できるように工夫している。		中庭やテラスへの段差や階段の解消を検討している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	情報収集の中で本人の仕事歴や趣味、得意だった事を職員は把握しており、指示するのではなく時間をかけゆっくりと自然に本人の力を出せるような、雰囲気や環境作りを工夫している。		「各個人の私生活上の自由」考えながら、その人の出来ないことではなく出来ることを指示し、その人の有する能力を活かした雰囲気や環境作りを工夫し、自立した暮らしを支援して行きたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関から独歩の方は自由に出入りされ、スロープや手摺りを使用し、介助が必要な利用者は、スタッフが付き添って行っている。又、中庭やテラスでの食事会等楽しんでいる。		中庭やテラスへの段差や階段の解消を検討している。

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・健康管理等十分に心掛けている。(うがいや手洗い、衣服チェック、室内の換気等など)
- ・利用者とのコミュニケーションを大切にしている。
- ・毎日の会話や話しかけ、入居者との共同作業(洗濯等、畑作業、漬物作り等)残存・潜在能力の維持、活動の支援を行っている。